

新医学系指针对応「情報公開文書」改訂フォーム

研究協力のお願い

昭和大学病院では、下記の臨床研究（学術研究）を行います。研究目的や研究方法は以下の通りです。この掲示などによるお知らせの後、臨床情報の研究使用を許可しない旨のご連絡がない場合においては、ご同意をいただいたものとして実施されます。皆様方におかれましては研究の趣旨をご理解いただき、本研究へのご協力を賜りますようお願い申し上げます。

この研究への参加を希望されない場合、また、研究に関するご質問は問い合わせ先へ電話等にてご連絡ください。

呼吸器疾患患者における気道抵抗値と動脈血中二酸化炭素値の関連性の検討

1. 研究の対象および研究対象期間

2014年1月1日から2020年2月14日までで呼吸器疾患を有する患者で、気道抵抗検査と動脈血中二酸化炭素値を測定している患者。

2. 研究目的・方法

慢性閉塞性肺疾患(COPD)を代表とする慢性呼吸器疾患患者の一部ではCO₂が体内に貯留するⅡ型呼吸不全が存在し、患者QOLを損なう。Ⅱ型呼吸不全の治療としては呼吸器疾患の治療に加えて、noninvasive positive-pressure ventilation (NPPV)などの換気療法を併用し治療するが、治療選択肢が少ない。また、高二酸化炭素血症が生体や病態に与える影響については不明な点も多い。最近、末梢や中枢気道抵抗を測定するインパルスオシレーションシステム (IOS)法が開発され、日常臨床においても汎用している。気道抵抗の増加と疾患の悪化に関する報告がされている。そして、われわれの基礎的検討では、高二酸化炭素環境下では気道平滑筋の収縮が観察されている。そこで、呼吸器疾患患者における気道抵抗値と動脈血中二酸化炭素値の関連性を検討することを立案した。新規治療戦略の創出や治療手法の改善を最終的な目標とする。方法は昭和大学病院で何らかの呼吸器疾患を診断された患者を対象に、後方視的に気道抵抗値や動脈血中二酸化炭素値を中心に患者情報を収集する。

本研究は学術研究であり、昭和大学病院に通院中の患者データを利用する。患者データは病院内の診療録管理室にて「9.診療録等の調査項目」に記載した情報を取得する。取得した情報は、本研究者間のみ情報を共有する。

診療情報の利用に伴う同意取得の方法:院内掲示又はホームページによるオプトアウトを行う。研究概要(研究目的・調査内容等)を適切に通知・公開し、診療録情報の利用について適切な拒否機会を与える。

研究期間「医学部 人を対象とする研究等に関する倫理委員会」承認後、昭和大学長の研究実施許可を得てから2021年9月30日までである。

3. 研究に用いる試料・情報の種類

患者情報として患者背景(年齢、性別、身長、体重、診断病名、既往歴、現病歴、投与薬)、気道抵抗検査値、動脈血中二酸化炭素値を用いる。

4. お問い合わせ先

所属 職名 氏名
 医学部内科学講座呼吸器・アレルギー内科学部門 講師 本間 哲也
 電話番号:03-3784-8000 E-mail:oldham726@yahoo.co.jp